

引津ひきつの亭とまりに舟泊ふねどまりして作つくる歌うた七首

三六七四番

草枕くさまくら 旅たびを苦くるしみ 恋こひ居をれば 可か也やの山やま辺へに  
さ雄鹿をしか鳴なくも

三六七五番

沖おきつ波なみ 高たかく立たつ日ひに 遭あへりきと 都みやこの人ひとは  
聞ききてけむかも

三六七六番

天飛あまとぶや 雁かりを使つかひに 得えてしかも 奈良ならの都みやこに  
言告ことつげ遣やらむ